

## マーケットの動き（2026年1月19日～1月23日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

2月8日の衆院選を控え、与野党がともに消費税減税を公約に盛り込むとの見方から財政拡張懸念が強まり、超長期債を中心に売りが広がりました。その後、20日の財務相の発言で財政懸念が和らぎ買い戻しが入りましたが、週末に日銀が公表した展望レポートの内容を受け利上げ観測が高まり、再び売りが優勢となりました。

クレジット市場は、一部に売りがみられたものの、短中期債を中心に堅調に推移しました。

## 投資環境見通し（2026年1月）

## 国内長期金利に対する上昇圧力は残る

日銀は12月の金融政策決定会合で利上げ再開を決定し、日銀総裁は今後も利上げ路線を継続する姿勢を示しました。その後もなお、政策金利の到達水準を巡る思惑や財政拡大政策を背景とした需給悪化懸念は残ることから、国内長期金利に対する上昇圧力は残るとみています。ただし、今後の利上げ継続についてはすでに相当程度織り込まれたとみられることから、国内長期金利の上昇余地は限定的とみています。

	1月23日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.26	0.08	0.22	0.68	1.05
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	331.29	▲0.64%	▲1.53%	▲3.61%	▲6.89%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

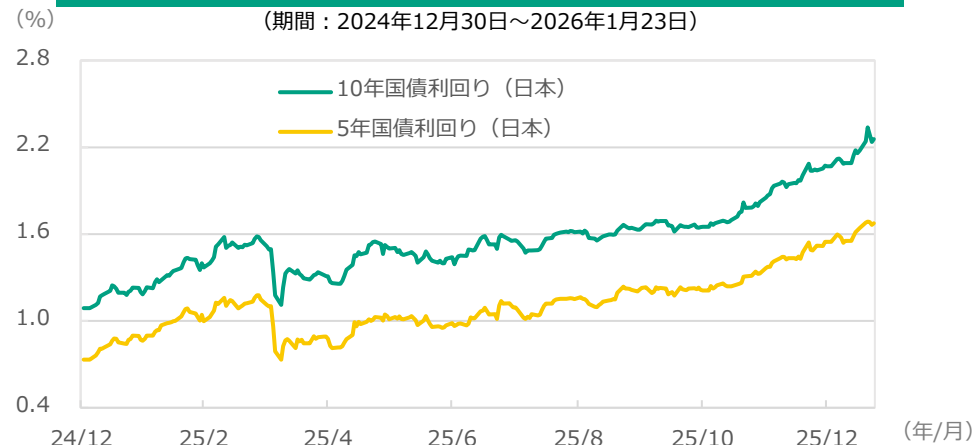
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202601\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202601_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

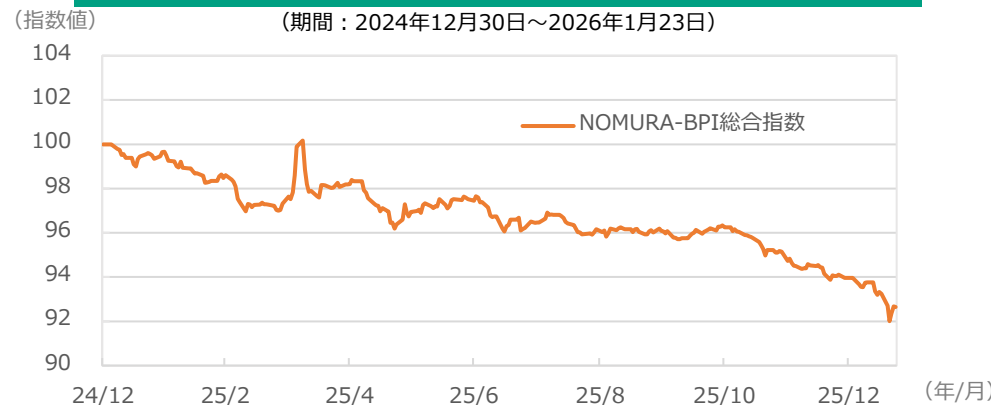
## 日本国債利回りの推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月23日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月23日）



※2024年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成